

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人あおい福祉会		
事業所名	グループホームしらかばおとふけ あい		
所在地	河東郡音更町新通り7丁目3番地19		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jlgy_bsvCd=0194700282-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームしらかばおとふけは、法人理念である「地域の「生きる」を支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活ができるように努める事を念頭に、職員一同が同じ方向を向き利用者一人ひとりの支援を行っています。ホーム周辺の環境も良く、天気の良い日は近隣の保健センターを利用したり、日光浴や散歩と積極的な活動支援を行っております。また、四季折々での行事を計画し、安心・安全に、楽しみをもち生活して頂けるように職員のスキルアップを行い日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

＜日常的に戸外に出かける支援＞
 利用者一人ひとりのその日の希望に沿って、隣の保健センターでマッサージ器を利用したり、日光浴や散歩、買い物等で気分転換を図り、戸外に出かけられるように支援している。また、季節に応じた行事を計画し、菊まつり見物、花火鑑賞、花見や紅葉散策など普段は行けないような場所へも出かけられるよう支援している。
 ＜職員を育てる取り組み＞
 定期的に内部研修や法人内研修の場を設けて、感染症予防や介護技術講習での食事、入浴、口腔ケアの介助方法等を習得する機会を作っている。外部研修も積極的に推進し、希望があれば勤務の変更等で出来る限り学べる機会を確保している。また、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、資格取得に向けた必要な研修が受けられケアの質の向上に繋げる体制づくりに法人全体で取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に施設理念・法人理念・今年の目標を掲示し、職員一同その理念・目標のもとに利用者へのサービスに繋げている	法人理念・事業所理念・年間目標を作り、職員会議やモニタリング等を通じて話し合い、実践につなげている。また、事務所内に掲示して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの焼肉交流会に参加して頂いたり、町内会の行事にも参加している。地域の学生ボランティアにも行事に参加していただいている。	町内会の行事や催し物に参加し、事業所主催の夏祭りや焼肉交流会を開催して地元の人々との交流の機会を作っている。また、高校生のインターシップの受け入れやボランティアの行事への参加協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内にある短期大学の学生の実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	困難事例や運営状況の報告行い、相談や貴重な意見を頂きながらサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の取り組み状況や研修報告、事故やヒヤリハットの報告等の内容について話し合い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護相談員が来所の際に、ケアサービスの取り込みや実情を報告・相談し、協力関係を築いている。	町担当者及び包括支援センターとは、運営推進会議や介護相談員の訪問の際に相談や取り組みについて情報交換を行いながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、施錠以外にも職員全員で身体拘束がもたらす弊害について深く考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。契約時、ご家族に対し、身体拘束をしないというホームの方針を説明している。	身体拘束廃止委員会を設置して、外部や法人内での研修会で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、社内研修等で学ぶ機会があり、虐待になりうる例などを職員間でも情報や研修で学んだ内容を深く考え、日々のサービスに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で外部講師招き、学べる機会がある。それらを事業所に持ち帰り、職員会議等で知識・情報を共有している。実際に活用されている事例もあり、連携を取りながら支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得のに努めている。契約時以外でも不安や疑問があればその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、面会の際にご家族からの意見や要望を聞けるよう話しやすい環境づくりに努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。	ご家族の来訪時には意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見や要望等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や申し送り等で、職員の意見や提案を聞き、検討した上で運営に反映させている。	毎月の職員会議や日々の申し送りで運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に準職員から正職員への昇格制度や休暇制度の確保に努めている。育児休暇を取得する職員も増えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員へ呼びかけたり、いつでも参加出来るように取り組んでいる。資格取得に必要な研修等、職員一人ひとりが向上出来る体制に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝管内のグループホームの研修会に参加しており、他事業所の取り組みも学んでいる。今年は参加する機会が少なかった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや訪室の機会を増やすなど、新たな環境での生活に対する不安や悩みを少しでも軽減できるよう努力し、よりよい関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや契約時、不安なことや困りごとへの話を伺い、ご家族の気持ちを汲み取りながら対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス事業者からの情報や、利用者本人や家族からの話の中で必要とされる支援を見極め・確認し、サービスの取り組みに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で家事を一緒に行い、協力しながら行えるよう努めコミュニケーションを通し信頼を深めていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ときには家族へ相談したり面会時に生活の様子を報告し、ともに本人の問題に取り組めるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方々がいつまでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また、今までの習慣がホームへ入居しても継続できるようにできる範囲で行っている。	隣の保健センターへの訪問や日常的な散歩や買い物、焼肉交流会開催で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業を通じて、利用者同士の関わりや、支えながら生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば受け入れる体制はできている。また、契約終了後にも関わらず、ご家族よりタオル等を寄附して頂くこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を確認・検討し、ケアプランに上げている。	利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を聞き取り、家族からの意向も把握し、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から聞ける方には話しを尋ねたり、ご家族から情報を聞き、把握に努め、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話の中から、利用者個々の生活のあり方や心身の状態を把握し、ケア会議や申し送り等で職員で状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の課題や意向、ご家族の意向を聞き、ケア会議で話し合い・検討し介護計画書を作成している。	本人・家族の意向や要望が反映されるようにカンファレンスやモニタリングを通じて、職員からの意見やアイデアを下に現状に即した具体的な介護計画を作成している。また、入院や体調不良時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子・気づきや利用者本人の言葉、またケアの実践にの結果を記入し、会議や申し送りでの情報を共有しながら介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの相談には随時対応している。また、必要に応じ、介護老人福祉施設を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の施設へ散歩がてら出かけ、知人と会話をしたり、地域の子供たちとの交流を図り、楽しみが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切に、受診の際は職員より医師に状態報告を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	受診は、本人・家族の納得したかかりつけ医となっており、医師との連携や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に介護職員は看護職員へ報告・相談を行い、介護職員・看護職員ともに受診の支援をしている。夜間の救急時や体調の変化があった場合も連絡や相談・対応できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との入院時や退院時に密に連絡を取り連携を図っている。入院した際にはホームから病院の方へ連絡し、状態の確認をしている。協力病院であれば、定期受診時に医師へ確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や退院時・状態変化時に家族へ救急時の対応や終末期のあり方について話を伺っている。また、ホームで可能な対応についてケアプラン上に載せながら説明と方針を話し合っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合っている。事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの整備や普通救命講習、一般救命講習へ参加し、緊急時に迅速に対応出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っており緊急時には迅速に対応できるように実践的な訓練と避難方法の確認を行っている。水害に対する訓練は行っておらず、訓練を行う必要がある。グループ全体での災害対策を検討している。	火災避難訓練を年2回実施し、緊急時に全ての職員が迅速に対応できるように消防署の協力を得ながら地域の人々も参加して行っている。また、全職員が避難誘導や火災通報装置等を取り扱えるよう訓練を実施している。	今後は昨年の大雨を教訓として水害等の自然災害についての対応(避難方法や協力体制等)を法人全体で検討しているのでその実践に期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等に参加し、尊厳やプライバシーについて学んでいる。また、会議等で声掛けや対応の仕方について話し合いを行い、職員同士で注意できる環境づくりに努めている。	一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように内部研修会で職員間に周知している。また、職員間でお互い注意し合える関係性を構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中で、利用者の思いや希望を聞き、日常の場面で自己決定につなげる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切に歌や塗り絵、レクリエーション等の楽しみを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、または2ヶ月に1回の出張理容を利用している。普段の生活でも身だしなみや服装にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見ても食べても満足して頂けるような献立を考え、行事で提供したり、日々の献立の中にも利用者の希望する食べ物を取り入れ、お手伝いをしてもらったり、盛り付けにも気を配っている。	利用者一人ひとりの好みや希望、季節の食材を取り入れて提供している。また、調理や食事の準備、おやつ作り等を職員と一緒にやり、外食ツアーも企画して食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、食べる量を検討し調整している。水分は個々の状態に合わせて、嗜好や形態の工夫をし水分確保の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、介助または見守りにて義歯洗浄や口腔清拭・ブラッシングを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄用具や誘導が適正かどうか検討し、一人ひとりの力を活かした支援に努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、本人の状態に合った声掛けや誘導の方法、排泄用品を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	みそ汁に食物繊維を取り入れたり、水分チェックや毎日の体操を行い、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日は事業所側で決めてはいるが、体調不良や外出等、体調に合わせて個人の希望に添いながら曜日を変更し入浴できるように努めている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。また、リフトを導入して職員の負担軽減を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、眠れない時は飲み物を提供したり、お話をしたり、明かりや温度にも注意し安心して眠れるような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の用法や副作用等を職員一人ひとりが把握し、薬の変更時には特に気をつけ周知し、症状の変化に注意し記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った家事やレクリエーションの提供や、個別での外出を楽しみに繋がる支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に沿って、買い物や散歩へ出掛けている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援している。また、外食ツアーや菊まつり見物、花見や紅葉散策など普段は行けないような場所へも出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはホームでお預かりしている。出掛けたり、買い物の際は小遣いを使用している。利用者本人が強くお金を持つことを希望される場合は、リスクを説明した上で少額のお金持って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方はいつでも電話をかけられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での刺激(光や音、温度等)には配慮している。また、季節感のある飾り付けや行事の写真を掲示する事で、利用者同士やご家族と会話する時間となっている。	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は清潔感が漂い広く、季節ごとの手作りの作品や行事参加の写真が飾られ、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々、居室で過ごされたり、リビングで職員と会話をしたり、ゲームや歌、テレビを観る等、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族と利用者の状態を確認・相談しながらその方に必要な家具や普段より使い慣れている生活用品を準備して貰っている。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具などが持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や使用中の札の掲示や手摺りを設置し、分かりやすいように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームしらかばおとふけ あい作成日: 平成 29年 11月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	47	誤薬事故について	服薬ミス等の事故をゼロにする	誤薬は重大な事故に繋がる事を一人ひとりが自覚を持ち、マニュアルのもと、確認を徹底する。 また、ホーム及びグループ全体の委員会を通し防止策を検討する。	6ヶ月
2	35	自然災害(水害)に対する訓練を行う必要がある	訓練の実施	職員会議等で机上訓練を実施し、グループ全体としてもマニュアルを整備する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホームしらかばおとふけ ゆめ		
所在地	河東郡音更町新通り7丁目3番地19		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700282-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームしらかばおとふけは、法人理念である「地域の方の「生きる」を支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活ができるように努める事念頭に、職員一同が同じ方向を向き利用者一人ひとりの支援を行っています。ホーム周辺の環境も良く、天気の良い日は近隣の保健センターを利用したり、日光浴や散歩と積極的な活動支援を行っております。また、四季折々での行事を計画し、安心・安全に、楽しみをもち生活して頂けるように職員のスキルアップを行い日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に施設理念・法人理念・今年の目標を掲示し、職員一同その理念・目標のもとに利用者へのサービスに繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの焼肉交流会に参加して頂いたり、町内会の行事にも参加している。地域の学生ボランティアにも行事に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内にある短期大学の学生の実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例や運営状況の報告行い、相談や貴重な意見を頂きながらサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護相談員が来所の際に、ケアサービスの取り込みや実情を報告・相談し、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、施錠以外にも職員全員で身体拘束がもたらす弊害について深く考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。契約時、ご家族に対し、身体拘束をしないというホームの方針を説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、社内研修等で学ぶ機会があり、虐待になりうる例などを職員間でも情報や研修で学んだ内容を深く考え、日々のサービスに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で外部講師招き、学べる機会がある。それらを事業所に持ち帰り、職員会議等で知識・情報を共有している。実際に活用されている事例もあり、連携を取りながら支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得のに努めている。契約時以外でも不安や疑問があればその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、面会の際にご家族からの意見や要望を聞けるよう話しやすい環境づくりに努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や申し送り等で、職員の意見や提案を聞き、検討した上で運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に準職員から正職員への昇格制度や休暇制度の確保に努めている。育児休暇を取得する職員も増えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員へ呼びかけたり、いつでも参加できるように取り組んでいる。資格取得に必要な研修等、職員一人ひとりが向上できる体制に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝管内のグループホームの研修会に参加しており、他事業所の取り組みも学んでいる。今年は参加する機会が少なかった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや訪室の機会を増やすなど、新たな環境での生活に対する不安や悩みを少しでも軽減できるよう努力し、よりよい関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや契約時、不安なことや困りごとへの話を伺い、ご家族の気持ちを汲み取りながら対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス事業者からの情報や、利用者本人や家族からの話の中で必要とされる支援を見極め・確認し、サービスの取り組みに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で家事を一緒に行い、協力しながら行えるよう努めコミュニケーションを通し信頼を深めていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ときには家族へ相談したり面会時に生活の様子を報告し、ともに本人の問題に取り組めるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方々がいつまでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また、今までの習慣がホームへ入居しても継続できるようにできる範囲で行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業を通じて、利用者同士の関わりや、支えながら生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば受け入れる体制はできている。また、契約終了後にも関わらず、ご家族よりタオル等を寄附して頂くこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を確認・検討し、ケアプランに上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から聞ける方には話しを尋ねたり、ご家族から情報を聞き、把握に努め、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話から利用者個々の生活の在り方や心身の状態を把握し、会議・申し送り等で職員同士が情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族にグループホームの生活についての要望等を伺い、それを基にケア会議にて職員間で検討し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子や利用者本人の言葉、ケアの実践結果等記入し、会議や申し送りで情報を共有し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの相談には随時対応している。また、必要に応じ、介護老人福祉施設を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の施設へ散歩がてら出かけ、知人と会話をしたり、地域の子供達との交流を図り、楽しみができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切にし、受診の際は職員より医師に状態報告を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に介護職員は看護職員へ報告・相談を行い、介護職員・看護職員ともに受診の支援をしている。夜間の救急時や体調の変化があった場合も連絡や相談・対応できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との入院時や退院時に密に連絡を取り連携を図っている。入院した際にはホームから病院の方へ連絡し、状態の確認をしている。協力病院であれば、定期受診時に医師へ確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や退院時・状態変化時に家族へ救急時の対応や終末期のあり方について話を伺っている。また、ホームで可能な対応についてケアプラン上に載せながら説明と方針を話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの整備や普通救命講習、一般救命講習へ参加し、緊急時に迅速に対応出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っており緊急時には迅速に対応できるように実践的な訓練と避難方法の確認を行っている。水害に対する訓練は行っておらず、訓練を行う必要がある。グループ全体での災害対策を検討している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等に参加し、尊厳やプライバシーについて学んでいる。また、会議等で声掛けや対応の仕方について話し合いを行い、職員同士で注意できる環境づくりに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中で、利用者の思いや希望を聞き、日常の場面で自己決定につなげる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にし歌や塗り絵、レクリエーション等の楽しみを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、または2ヶ月に1回の出張理容を利用し手居る。普段の生活でも身だしなみや服装にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一緒に行いながら出来る事を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、食べる量を検討し調整している。水分は個々の状態に合わせ、嗜好や形態の工夫をし水分確保の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、介助または見守りにて義歯洗浄や口腔清拭・ブラッシングを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄用具や誘導が適正かどうか検討し、一人ひとりの力を活かした支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	みそ汁に食物繊維をとり入れたり、水分チェックや毎日の体操を行い、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は職員側で決めてはいるが、体調不良や外出等、体調に合わせて個人の希望に添いながら曜日を変更し入浴できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、眠れない時は飲み物を提供したり、お話をしたり、明かりや温度にも注意し安心して眠れるような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の用法や副作用等を職員一人ひとりが把握し、薬の変更時には特に気をつけ周知し、症状の変化に注意し記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った家事やレクレーションの提供や、個別での外出を楽しみに繋がる支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に沿って、買い物や散歩へ出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはホームでお預かりしている。出掛けたり、買い物の際は小遣いを使用している。利用者本人が強くお金を持つことを希望される場合は、リスクを説明した上で少額のお金持って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方はいつでも電話をかけられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での刺激(光や音、温度等)には配慮している。また、季節感のある飾り付けや行事の写真を掲示する事で、利用者同士やご家族と会話する時間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々、居室で過ごされたり、リビングで職員と会話をしたり、ゲームや歌、テレビを観る等、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族と利用者の状態を確認・相談しながらその方に必要な家具や普段より使い慣れている生活用品を準備して貰っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や使用中の札の掲示や手摺りを設置し、分かりやすいように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームしらかばおとふけ ゆめ作成日: 平成 29年 11月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	47	誤薬事故について	服薬ミス等の事故をゼロにする	誤薬は重大な事故に繋がる事を一人ひとりが自覚を持ち、マニュアルのもと、確認を徹底する。 また、ホーム及びグループ全体の委員会を通し防止策を検討する。	6ヶ月
2	35	自然災害(水害)に対する訓練を行う必要がある	訓練の実施	職員会議等で机上訓練を実施し、グループ全体としてもマニュアルを整備する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。